

資料 2

6月29日（月）

社会教育委員会議資料

生涯学習推進ビジョンについて

さいたま市教育委員会

生涯学習推進ビジョン策定に向けた国の動向

平成30年6月 人生100年時代構想会議（座長：内閣総理大臣）

我が国は、健康寿命が世界一の長寿社会を迎えており、今後の更なる健康寿命の延伸も期待される。

こうした人生100年時代には、高齢者から若者まで、全ての国民に活躍の場があり、全ての人々が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくる必要があり、その重要な鍵を握るのが「人づくり革命」、人材への投資である。

平成30年6月 第3期教育振興基本計画（閣議決定）

2030年以降の社会像の展望を踏まえた個人と社会の目指すべき姿と教育の役割として、

- ・個人→「自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造する人材を育成していくこと」が重要である。
- ・社会→「一人一人が活躍し、豊かで安心して暮らせる社会の実現」と「長期的な見通しを持って、社会（地域・国・世界）の持続的な成長・発展」を目指していくことが重要である。

平成30年12月 中央教育審議会答申（座長：第9期中央教育審議会会長）

「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」

- ・今後の我が国にとって「『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」が一層重要である。
- ・地域における新時代の社会教育の方向性として「開かれ、つながる社会教育」を提示した。
- ・社会教育活動の出発点となるのは、「個々人の学びの意欲」と「学びの場への主体的な参画」である。
- ・首長部局、学校、NPO、企業等の多様な主体が、これまで以上に連携・協働することが必要である。
- ・世代を超えた学びを通じて、心を開き、つながりを深め、地域の課題に向き合いつつ地域独自の強みや特色を生かした、多彩で創造的な取組を進めることが、個人の豊かな生活の実現と、元気で明るい多様な地域社会の共創につながる。

生涯学習推進ビジョン策定に向けた本市の動向

平成31年4月～ 第2期さいたま市教育振興基本計画

さいたま市の教育が目指す人間像 「世界と向き合い 未来の創り手として 輝き続ける人」
 基本理念 「人生100年時代を豊かに生きる「未来を拓くさいたま教育」の推進
 基本的方向性3 「人生100年時代を輝き続ける力の育成」
 基本的方向性4 「スクール・コミュニティによる連携・協働の充実」

令和元年9月 さいたま市社会教育委員会議答申

～新たな時代の生涯学習環境の整備に向けて～
 方向性1 いつでも、どこでも、何度でも学べる環境づくり
 方向性2 学習意欲を引き出す学びのきっかけづくり
 方向性3 「学び」と「活動」が循環する環境づくり

令和2年1月 「未来を拓くさいたま教育」推進プロジェクト

方向性4 人生100年時代を見据えた教育環境整備
 ・人生100年時代を輝き続ける力を育成する生涯学習の推進 (ソフト面) → **生涯学習推進ビジョン策定へ**
 ・市の魅力アップにつながる生涯学習関連施設の整備 (ハード面)

令和2年1月 次期総合振興計画(案)の検討

第4章教育 第1節 人生100年時代を豊かに生きる「未来を拓くさいたま教育」の推進
 施策3 「人生100年時代を輝き続ける力の育成」

成果指標	「学習機会を得ている」と感じる市民の割合	令和元年度実績 50.5%	令和12年度目標 55.0%
	「学習の成果を地域活動やボランティアなどで社会に還元している」と答えた市民の割合	令和元年度実績 27.2%	令和12年度目標 30.0%

施策4 「スクール・コミュニティによる連携・協働の充実」

成果指標	「地域の学校は、地域から信頼されている」と思う市民の割合	令和元年度実績 72.1%	令和12年度目標 80.0%
	「地域の人たちは、自分たちを見守り、支えてくれている」と思う児童生徒の割合	令和元年度実績 93.5%(小6)・83.8%(中3)	令和12年度目標 94%以上(小6)・84%以上(中3)

さいたま市生涯学習推進ビジョン（概要・基本的な方針たたき台案）

概 要

豊かで安心して暮らせる社会の実現に向け、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の観点により、本市の生涯学習の理念を市民に分かりやすく示す指針として、新しい時代を豊かに学ぶための生涯学習を推進するビジョンを策定するもの。

基本的な 考え

- I いつでも、どこでも、何度でも学べる環境づくり
- II 学習意欲を引き出す学びのきっかけづくり
- III 「学び」と「活動」が循環する環境づくり

検討状況

令和元年度 社会教育委員会議（11月、1月）・生涯学習推進部会（12月、1月）



令和2年2月～ 生涯学習部職員243名によるヒアリングを実施 3月～ 回答を集約



令和2年4月～ ヒアリングシート「言葉のシャワー」を作成
・生涯学習に携わる本市職員から、自由記述形式のアンケート形式で得た言葉集。
☞ 新しい時代の生涯教育とは何かを探るヒントとして活用する。



令和2年5月～ ヒアリングシート「言葉のスクラム」を作成
・言葉のシャワー編から見えてきたものをグループ化し、ビジョン策定に向けて方向感を出したもの。
☞ 新しい時代の生涯教育の姿を模索するアイデア集として活用する。



令和2年5月29日 教育戦略会議に報告



令和2年6月22日
・生涯学習推進部会で検討



本日現在

令和2年6月29日
・社会教育委員会議で検討

新しい時代における生涯学習の意義について

新しいビジョンでは、新しい時代における生涯学習の意義を唱えていきたいと考えています。
そこで、本日は以下の2点を軸として、皆様から御意見や御助言を賜わりたいと思います。

- **コロナ禍での生涯学習の重要性について**
- **生涯学習の新しい可能性について**

… 部会でも同テーマについて検討を行っております。主な意見等は次ページを御参照ください。

6月22日（月）開催 生涯学習推進部会における主な意見、アイデア

ヒアリングや熟議を通して、ビジョン策定に向けて取り組んでいます！



生涯学習推進部会メンバー（18名）

生涯学習振興課	高野主事
人権教育推進室	野口主任
文化財保護課	杉本主査
青少年宇宙科学館	安藤指導主事
博物館	畠山主事
うらわ美術館	木曾指導主事
生涯学習総合センター	沼田主事
岩槻本丸公民館	鈴木主査
中央図書館	山宮主査
与野図書館	宇田川主任

社会教育委員・映画監督	林様
さいたま市PPPコーディネーター	宮本様
生涯学習部	竹居部長
生涯学習振興課	山本課長
生涯学習振興課	辰市課長補佐
生涯学習振興課	田方企画振興係長
生涯学習振興課	久松主査
生涯学習振興課	曾根主任

コロナ禍での生涯学習の重要性について（見えてきたもの）

- 生涯学習は、**新しい時代を生き抜くための武器**だと捉えています。そのことが、コロナ禍という危機の中ではっきりと見えてきました。その中でも、特に重要な学びは、一般教養である「**リベラルアーツ**」であると思います。
- コロナ禍で、生涯学習関連施設は3か月間の臨時休業を余儀なくされました。しかし、単に箱としてではなく、**学びを提供していく「機能」**に着目したことにより、職員は自分たちの使命や役割について**原点に戻る**貴重な機会を得たと思います。そのことが、新しい生涯学習の可能性を気付かせてくれました。
- 学びを楽しみ、**学びを止めない**ということが人生にどのようなことをもたらすのか、人々が考えを深めている今こそ、市として生涯学習を推進し、広く啓発していく良いタイミングであると思います。
- コロナ禍にあっても、公民館や図書館で学びたいという多くの声をいただきました。生涯学習は、市民の**心の拠り所**であったと思います。これからは、ICTを活用した生涯学習の発信を充実するなど、新しい時代にふさわしい取組が重要であると思います。
- コロナ禍の今、全世界において、誰もが**想定外の連続**に立ち向かい、新たな環境を見出したり、生活スタイルを見直す**転換期**だと思っています。この先の人生を豊かに生き抜くには、生きることそのものに資するような**新たな学び**が必要であり、そのためには**人と人のつながり**が重要な役割を果たすと思います。
- 未曾有の危機を、行政だけで乗り越えていくことは到底不可能です。人と人のつながり、人と地域のつながりにより、**新たな発想**で立ち向かうことが、危機の克服に結びつきます。そのことは、**個人の成長**や**地域の発展**にも寄与するという効果もあると思います。

- 生涯学習行政とは、市民の自発的な学習活動の環境を整えることだと思います。そのような観点を踏まえ、コロナ禍による**市民ニーズ**や、**学習方法の変化**を把握していくことが重要だと思います。
- どんな時代でも、学びを積み重ねていくことは、**人の成長ストーリー**そのものであると思います。突如襲ってきたコロナ禍は、**生き抜くためには学びが必要**だということ世界中の人々に突きつけました。
- 生涯学び続けることは、人間社会が共有すべき最も重要な**生存戦略（サバイバル）**として、世界中の人に自分事として、大きな意味を与えたのだと思います。
- コロナに全世界が立ち向かったように、世界中の全ての人々が一致した目標へ向けて行動し、未来世代へ地球を引き継いでいくという構想は、**SDGsにも共通するもの**です。コロナ禍を経験して、世界の持続的な発展のために、生涯学習の果たすべき使命は一層重要になってくると思います。
- 長く自粛をしていたことで、何かをしたい、誰かと会いたいといった欲求は高まってくると思います。そうしたニーズを学びにつなげていくことが、新たなかたちの生涯学習の姿になってくるのだと思います。そのためには、**生涯学習が持つ価値や魅力**を分かりやすく伝えるビジョンが必要になってくると思います。
- オンライン飲み会、オンラインお茶会などという言葉が世間で流行るくらい、コロナによって、**つながりの大切さ**を意識した人は多いと思います。非常時ほど、つながりを求める人が多くなると思います。
- コミュニティが希薄している今、コロナ禍によって気が付いたつながりの大切さは、助け合える関係、支えあうことができる関係として、**地域づくりにそのまま結び付く**のではないかと思います。
- コロナ禍を経験して、今までの一堂に会して学習するという方法のほかに、Zoomアプリ等を使用することにより、**離れている場所でも学習できる**など、生涯学習の方策の幅が増えたというプラスの部分もあると思います。
- 施設としてできること、できないことはあるものの、**何ができるのかという視点**を大切にして、役所が持つ固いイメージを打破していきたいと思います。

生涯学習の新しい可能性について（見えてくるもの）

- コロナ禍において、「**止まった学び**」と「**進んだ学び**」が出現したと思います。特に、学校教育において、自治体による取組の差が浮き彫りになりました。さいたま市は、スタディエッセンスなどの授業の動画配信により、子どもたちの学びを充実させることができましたが、プリントを配るだけの自治体もありました。生涯学習においても、ICTの取組を充実させることは、**住んでみたいと思う人を呼び込む**、重要な方策だと思っています。
- ICTの導入も含めて、民間企業や各種団体の先進的な取組に乗っかり、**行政として何ができるか**を考え、**実際にリンクさせていく**ことが大切だと思っています。コロナ禍を経た新しい公民連携の在り方を考える上でも、ICTは大変有効だと思っています。
- コロナ禍によって急にデジタル化が進んだわけではありません。コロナ以前も、デジタルを介さない日常生活は考えられませんでした。だからこそ、実際に人と会ったり、触れ合ったりする**リアル**の**価値**が改めて評価され、そこに**新しい生涯学習の可能性**が見出せるのだと思います。
- 学ぶことと同じくらい、**活動というアウトプット**も大事であると思います。また、オンラインが使えない人へのケアと、オンラインしか使わない、使いたくない人との対応は分けて考える必要があると思います。
- Youtubeなどを活用することで、不登校の子どもたちにも、学びの楽しさをICTを通じて伝えることができるようになるなど、**新しい可能性**を感じました。そうした、**学びの入り口**をたくさん作り、発信していくことが重要であると思います。
- 発信においては、**誰をメインターゲットにするか**が大事だと思っています。そこで、美術館では、作品の素晴らしさが美しい画像で伝わるように、親世代に広く普及しているInstagramによる広報を展開し、親子の交流を通じて、子どもたちにも広く美術のことを知ってもらうよう工夫しました。

- 今年度から始まった新しい学習指導要領でも、**生涯を通じて学びに向かう力**が重要視されています。今どのような学びが必要なのか、**各施設の特徴**を生かしながら、夢を語っていきたいと思います。
- 山形市では、「東北学」といった講座の中で、東北文化の中で**埋もれているものを発掘**し、伝統文化を**再発見**するといった取組を行っていると聞いています。このような既存の取組に、再び光を当てるような考え方も重要であると思います。
- SDGsは社会全体としての最適解を求めらる中で、誰一人取り残さないことを目標としています。ここで注意しなければならないのは、例えば、「パソコンを使えない人がいるからオンラインの講座の実施を見合わせる」といったような姿勢は、少数の個人の事情に引きずられて、その他多数の学習環境が更新されないといった側面を生むことです。SDGsのために生涯学習を推進するのではなく、**生涯学習を充実させるためにSDGsの考え方を取り入れる**といった視点が重要だと思ひます。
- つながりや継続的な学びの重要性が見直されている今、**生涯学習に対する追い風**が吹いていると思ひます。一方、市民から見ると、コロナ禍において、生涯学習が一層必要だということに結び付かない方もいると思ひます。それを結びつけるためにも今、**新しいビジョン**が必要です。
- 今般、オンライン講座を実施したところ、主婦の方や介護中の方、難聴の方など、日頃、施設に来ることができない多くの方に参加をいただきました。こうした方々は、特にコロナ禍の中で、学びの機会が十分に得られていなかったようで、講座があつて助かった、といった**感謝の言葉**が多数寄せられました。
- 市として生涯学習を推進していくことは、**まちを創造していくこと**だと思ひます。市民と職員が**元気で、わくわくした気持ち**によって、明るい未来をともに信じ、**夢とロマン**を共有することが大切だと思ひます。
- さいたま市の生涯学習としての今までの積み重ねを見直し、市民に見えるかたちで示すことによつて、既存の取組の価値も上がると思ひます。そうした考えにより、過去から現在まで、長い年月をかけて様々な方たちの尽力や思いによつてはぐまれた取組に、SDGsという新しい切り口によつて**新たな価値**を見出していこうと思ひます。

今後の流れ

本日現在

6月29日

第10期第3回 社会教育委員会議

- ・社会教育関係団体補助金について
- ・生涯学習推進ビジョンについて（概要・基本的な方針案、スケジュール等）



9月下旬～10月上旬

第10期第4回 社会教育委員会議（予定）

- ・生涯学習推進ビジョンについて（骨子・全体像の検討等）



12月下旬～1月上旬

第10期第5回 社会教育委員会議（予定）

- ・生涯学習推進ビジョンについて（素案）
- ・第2次さいたま市生涯学習推進計画関連事業調査結果の報告及び評価について



3月上旬～中旬

第10期第6回 社会教育委員会議（予定）

- ・生涯学習推進ビジョンについて（成案）